

おもしろいことや耳より情報など、身近なまちのニュースがありましたらぜひお教えてください。  
秘書人事課 ☎ 72-7646 ✉ koho@city.tokushima-miyoshi.lg.jp



## 5.27 豊かな森を 未来へ残すために

池田町馬路地区で'23 森づくりで広がる「協働の輪 in JTの森 三好」が開催されました。林業の担い手減少などで次世代への継承が困難な林地へ植林などを行い、未来へ森を持続させる活動を行っています。今回は、木材の活用を進める「使う緑化」プロジェクトとしてJT徳島支社様より県産材のベンチなどを寄贈していただきました。



## 6.1 美しいまちへ みどり会クリーン活動

日本たばこ産業のOBらを中心に結成するみどり会の会員が、池田町中心部の吸い殻やゴミを拾うクリーン活動を行いました。この活動は毎月1回、古くより続けられており、参加者は、「継続していくことは大変だけど、毎月仲間たちとおしゃべりできるいい機会」と語り、地域貢献ボランティアを楽しみながら続けている様子でした。

## 5.31 笑顔あふれる 最後のチャレンジデー



今年度で終了となるチャレンジデーが、他自治体との対戦を行わない形式にて開催されました。ラジオ体操やウォーキング、ゆるスポーツ、ボッチャ体験会など各種スポーツ教室が開催され、7,099 人の方が15分以上運動しました。体を動かし、交流を楽しむきっかけとなりました。

## 6.4 障がいのある方に優しい 社会を 奥山佳恵さん講演会



奥山佳恵さんの講演会「生きてるだけで100点満点!」が行われました。ダウン症の次男と家族の日々、学校での活動などをありのまま講演いただきました。約200人の参加者からは「障がいがある方への向き合い方が変わった」といった感想が寄せられました。

## 5.25 平和で希望に満ちた 社会を築くために



戦没者追悼式が池田総合体育館で開催され、214 名のご遺族が献花をしました。市内中学校からはメッセージが寄せられ、池田中学校3年安宅 優馬君が代表して「平和がいかに尊いものかを、僕たちの子どもの世代まで伝え、今の日常を精一杯生きていきます」と誓いました。

## 5.27 28 子どもたちの歓声響く 木育キャラバン in 三好



池田総合体育館で木育キャラバン in 三好が行われ、多くの親子連れで賑わいました。体育館いっぱいに広げられた数百点に及ぶ木のおもちゃに、子どもたちは目を輝かせ夢中になっていました。また、丸太早切りコンテストなども行われ、大人も力いっぱい楽しんでいました。

## 6.4 夜に楽しみをプラス イケダ夜市



毎月1回日曜の夜に屋台が並ぶ「イケダ夜市」がフレスポ阿波池田で初開催されました。飲食店有志で作る団体「イケダアップ商店」が池田の賑わいづくりと交流の場を目的として計画したものです。スーパーボールすくいなど子ども向けの屋台もあり、多くの人で賑わいました。

## 5.22 新しい山城支所は 「ほんぼこ妖怪役場」



三好市役所山城支所が新しい庁舎にて業務を開始しました。移転に際し、新しい支所の愛称を住民から募り、開所式にて「ほんぼこ妖怪役場」となったことが発表されました。支所は3階建てでエレベーター、多目的トレイが新設され、避難所として活用できる和室も備えています。



## 6.3 最後のうだつマルシェ 美味しい・可愛いが勢揃い



池田町本町通り付近で、うだつマルシェが開催されました。「12年ありがとう!ラストマルシェ」と題し、飲食や雑貨など約35店舗が集まりました。マルシェの発起人、故黒木先生の追悼や「鷲監督生誕100年」のメモリアル、大道芸などのイベントも同時に行われ、大勢の方が最後のマルシェを楽しみました。

## 5.27・28 妖怪ぞろぞろ 大集合

道の駅大歩危で「四国妖怪フェスティバル」が開催されました。飲食や雑貨などのマルシェが開催される中、妖怪たちがパレードを行い、その姿に泣きだしてしまう子どももいました。また、ダンスや歌のステージショーや妖怪に関するトークショーなどもあり、2日間妖怪たちと大いに盛り上がりしました。



## 6.5 包括的な連携 四国大学と協定

四国大学および四国大学短期大学部と包括的連携協力に関する協定の調印を行いました。今後は、整備予定の施設で市民に開かれた公開講座の連携実施やリモート型オープンカレッジによるデジタル人材育成などを予定しています。市の活性化とさらなる発展および四国大学の活動の充実に寄与する取り組みを展開していきます。



## 5.29 竹林の適正な 管理と利活用を考える

三野健康防災公園で「竹林の適正管理および利活用を考える集い」を開催しました。近年豪雨災害等で竹による通行障害が発生し、対応に多額の費用がかかっています。そこで、持続的な管理のためタケノコ取り体験、伐採体験、竹を細かくした堆肥製品の利活用などが紹介されました。これを機に今後の経費削減を目指していきます。